直腸がんに対する経会陰的鏡視下手術についての検討

1. 研究の対象

2014 年 1 月から 2015 年 5 月までに国立がん研究センター東病院大腸外科で直腸がんに対して経会陰的鏡視下手術が行われた方々を対象とします。

2. 研究の概要

直腸がんに対してこれまで自然肛門を切除し、永久人工肛門を作成する手術が行われてきました、2000年ころから自然肛門を温存する新たな手術である「括約筋間直腸切除術」が始まりました。また、近年腹腔鏡下手術の技術が進歩し、直腸がんに対しても行われるようになってきました。しかしながら、肛門近くのがんの切除には解剖上の要因から、手術がやりにくいことも少なくありません。そこで肛門側から鏡視下手術を行うことでより良い手術を行えるかどうかを詳しく検討します。

3. 研究の意義と目的

大腸がんに対する腹腔鏡下手術は、「大腸癌治療ガイドライン」でがんの部位や進行度などの腫瘍側要因および肥満, 開腹歴などの患者側要因だけでなく，術者の経験，技量を考慮して適応を決定するとされています。

肛門近くの直腸がんについては、手術操作の難度が高くなりますが、肛門側から鏡視下手術を行うことでその点を克服できると考えています。

この研究によるデータから、この術式が適切かどうかを検討することで、今後直腸がんの治療を受ける多くの患者さんに役立つ情報が得られると考えています。

4. 方法

2014年1月から2015年5月までに国立がん研究センター東病院大腸外科で直腸がんに対して経会陰的鏡視下手術が行われた患者さんの診療録から必要な情報を収集し、検証します。

5. 個人情報保護に関する配慮

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は研究登録時につけられた登録番号、カルテ番号、生年月日、病理番号を使って管理します。患者さんの氏名などの個人情報が院外に出ることはありません。また患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますのでいつでも下記まで申し

出てください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1
国立がん研究センター東病院　大腸外科　岡田晃一郎
TEL 04-7133-1111 / FAX 04-7131-4724